

一往直前

今年度初めての避難訓練

8月28日（金）に今年度初めての避難訓練（火災）が行われました。例年なら、4月頃に最初の避難訓練があったり、緊急時の引き渡し訓練があったりするのですが、新型コロナの蔓延防止のため、延期となり今回に至るかたちとなりました。

当日は、理科室で火災が発生した想定で、グラウンドの関係で体育館に、学年ごとに避難をしました。火災を想定しているということで、煙を吸い込まないようにマスクをして移動をすることになっていますが、普段からしていることもあり、静かにきちんと行うことができていました。火災を告げる緊急放送から全クラスの人員点呼完了までは3分49秒でした。場所にもよりますが、きちんとできたように思います。

その後の学年集会では、災害時に行うことの確認をしました。どんな災害があっても、まずは「自分の命を守ること」が大切であること。（火元に近づかない、地震の際は頭や体を守ること等）次に自分の命の安全が確保されたら、「周りの命を守ること」を心掛けること。（けがをしている、避難が遅れている人はいないか等）そしてそれらの安全が確保されたら、「これ以上の被害を食い止めること」も心掛けてほしいことを伝えました。（火災の場合は類焼を防ぐため窓を閉める、地震の場合は逆に戸が開かなくならないように開けておく等）

よく言われる「お・は・し・も」は、みんなほぼ全員認知していました。「押さない・走らない・しゃべらない・戻らない」の最初の文字を取ったものですが、避難するときには絶対に必要になることですので、改めて意識してほしいと思います。

おさない



かけない



しゃべらない



もどらない



学習のヒント

昨年の今頃（9月初旬頃）に、Yahoo ニュースに載っていたネット記事ですが、興味深いものでしたので今回、紹介します。

題して《**衝撃の自由研究！ 小学生による「宿題をさいごの日まで残しておいた時の家族と自分の反応」**》です。これは、自動車钣金塗装店「佐々木ボディー」がInstagramに投稿した息子の夏休みの宿題のことで、あえて夏休みの宿題をやらずに残しておいたとき、果たして自分や家族はどうなってしまうのかをテーマにした壮大な自由研究です。全21ページの自由研究ですが、この1ページ目ではまず、研究の趣旨について「この、研究を始めた理由は、毎年、宿題を十日ほどで終わらせていたけど、今年は、さいごまで宿題を残してしまった場合、家族と自分の気持ちをしらべてみたかったからです」と説明し、検証として、初日からの心境を日記形式でつづっています。最後の3日前までは宿題のことを全く考えなかったこの息子さんですが、そろそろ恐怖がめばえてきており、2日前の朝には、「朝、宿題をやらずに学校に行って、先生におこられる夢を見て目が覚めた。」わけです。強い意志で残り2日まで夏休みの宿題をやらずに置いておいた息子さんですが、さすがに宿題をやっていないことへの焦燥感や罪悪感が芽生えている模様。ここでついに家族に「夏休みの宿題を全くやっていないこと」を告白することとなります。衝撃の告白を受けた家族の反応についても息子さんは丁寧にまとめています。

～【おじいちゃん・おばあちゃん】 ウソでしょ？ おわるの？

【お父さん】 笑って「お父さんも最後の日に、泣きながらやってたな」という。

【お母さん】 毎日、宿題おわたったの？ とガミガミ言われていたが、やってるよーとぼくが、ウソをついていたことがばれ げきど。おこって、お皿をしまい割る。目が合っても何も言葉をかけてこない。
もしかしてぼくは、大変な研究に手を出して しまったのでは、ないだろうか…

【自分】 自由研究のためとはいえ こんな研究に手を出してしまった自分に腹がたってしかたない。かこにもどりたい… かこにもどりたい… かこには、もどれない。やるしかない。やるなら いましかない。
なみだがとまらない。かこにもどりたい…

【最終日のページ】

ぐっすりねむり、朝10時すぎに目が覚める。なぜだろう、最終日にもかかわらず、すがすがしい朝をおかえている自分がある。宿題は、まったくおわっていないのだ。なぜか、先生におこられる夢もまったく見ない。

もしかして、やっていなくてもおこられないんじゃないか？ とすら思えてきた。

そもそも宿題とは、何のためにあるのか。ぼくは、何のために生きているのか。

生命は、なんのためにこの世にうまれてきたのか。なぜ人は争うのか。朝がた おわたった。 学校に行こう。 完 ～

なんとか朝までかけて無事に宿題をやりとげ、自由研究を提出した息子さん。学校に提出する用紙に綴った「がんばったところ」については、「家族みんなのはんのうを、こまかく書いて良かったです。でも、弟もしゅくだいがおわっていなかったの、そっちをけんきゅうすれば良かったです」。先生からは「夏休みにたくさんの経験ができましたね」というコメントと共に、キラキラのシールがもらえたそうです。

ネット上ではこの研究に「息子さん、素晴らしい着眼点ですね」「息子さんの将来が楽しみですね！」「研究を通じて周囲の観察と自分の心と体の反応について、しっかりと文章を書き分けていて、笑いながらも感心して読ませてもらいました」などの感想が寄せられていました。

さて、今年の夏休みの宿題への取組はどうでしたか？早めに終わらせた人もいれば、この息子さんのように最後に追い込みをかけた人、諦めちゃった人いろいろだったと思います。今回の記事から分かる「後悔先に立たず」ということを教訓にして、次回の課題や宿題に活かしてってください。

